



遠別町外国人技能実習生受入対策協議会

近年増加しているベトナム人、カンボジア人の外国人技能実習生の受け入れ態勢を整備するため、水産業・建設業・行政と連携し、2020年2月に「遠別町外国人技能実習生受入対策協議会」を設立しました。

【目的】

外国人技能実習生が増加している中で、安心して生活できる環境を整備することが必要であり、外国人が暮らしやすいまちづくりを推進します。

ベトナム語翻訳 | Bản dịch tiếng Việt

Hội nghị về Đối sách tiếp nhận Thực tập sinh kỹ năng đặc định người nước ngoài của Thị trấn Embetsu
 Những năm gần đây, đối với tình trạng gia tăng số lượng thực tập sinh kỹ năng đặc định người Việt Nam và người Campuchia, để hoàn thiện hơn về hệ thống tiếp nhận thực tập sinh kỹ năng đặc định, Ngành thủy sản - Ngành xây dựng và Bộ hành chính đã hợp tác tổ chức "Hội nghị về Đối sách tiếp nhận Thực tập sinh kỹ năng đặc định người nước ngoài của Thị trấn Embetsu" vào ngày 2 tháng 2 năm 2020.

【Mục đích hội nghị】

Trong tình trạng số lượng Thực tập sinh kỹ năng đặc định người nước ngoài ngày càng gia tăng, việc xây dựng một môi trường để các bạn có thể an tâm sinh sống và làm việc là vô cùng cần thiết. Chính vì vậy, hội nghị có ý kiến về việc tạo nên một thị trấn mà người nước ngoài có thể sinh sống một cách dễ dàng.

また、町の高齢化（全人口の約4割）問題もあって、土木建設業者や一部の酪農家でも後継者不足が顕著になり、昨年北海道の『外国人材の受入支援』モデル事業に遠別町が採択されたことをキッカケとして協議会を立ち上げることになりました。そのため本年早々から各方面の関係者に受入協議会参加募集を図り、2月に役場で一堂に会し、設立総会を経て、さまざまな活動を開始した次第です。」

「新型コロナウイルス感染症の影響は？」
 「協議会の会員数は、漁業8先、遠別漁業協同組合、建設業3先、そして酪農業1先の合計13先で、現在の外国人技能実習生数は、ベトナム人48人、カンボジア人（酪農業に従事）4人、合わせて52人となっています。しかし新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年の1月から3月までに本国へ一時帰国した実習生が戻って来れなかったケースが漁業関係で3先、面接などの準備を終え新規採用を予定していた実習生が入国できないといった例が土木建設関係で2先発生しました。それでも全国から見ると影響は極々少ない方で、52人いるうち誰一人問題になることもなく、それぞれの受け入れ先で、他の従業員やパートナーとも

日本語教室/マナビィ・21にて



お医者さんは翻訳機片手にコミュニケーションを取ったり、ベトナム語通訳官の経験のある天塩警察署の警察官を招き、交通安全の教室やSNSでの



水産業に携わるベトナム人実習生も参加して開催された仮装盆踊り大会（2019年は悪天候のため屋内会場に変更）

遠別町では、町のキャラクター「モモちゃん」を使ったフェイスブックからも、ベトナム人実習生に関する情報を発信しています。（ベトナム語翻訳も有り）



外国人技能実習生は、遠別の産業を支える町の大きな戦力。
遠別町外国人技能実習生受入対策協議会が発足



▲遠別の産業を大きく支えているホタテの養殖。その養殖事業に欠かせない存在なのが外国人技能実習生。

◀遠別町外国人技能実習生受入対策協議会 会長 遠別漁業協同組合 理事 大村 隆徳さん（水産会社：大村漁業部 経営）



このところ、ベトナム国籍の元技能実習生らが引き起こした事件が報道されていますが、その背景や要因を探ってみると、どうやら民間の講習機関や受け入れ体制にも問題が潜んでいるようです。ほとんどの場合、ベトナム人技能実習生は、日本で職業スキルを身につけたい。本国に残した家族の暮らしを良くしたい。という夢や希望を持って訪日します。そのため受け入れる側もきちんと法令を遵守し、適切な労働条件を確保しながら外国人技能実習生の思いに寄り添った体制を整備しなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の発生以後、しばらくどの国においても出入国が中断されましたが、日本政府観光局が発表した2020年10月の訪日外国人人数（推計値）は、前年同月比約99%減の2万7,400人で、そのうちベトナム人が6,200人と最も多く、もはや日本の産業界に欠くことのできない大きな存在となっています。

さて、今回は遠別町で本年2月に発足した「外国人技能実習生受入対策協議会」を訪ね、大村会長に遠別の状況をお聞きしました。

中国人からベトナム人へシフト
 いつから外国人技能実習生の受け入れを？ 「遠別町は留萌振興局管内の北部に位置し、日本海に面した人口約2,500

人の町で、水産業と農業（水稲北限の地で酪農が盛ん）を基幹産業としています。この町で外国人技能実習生（旧制度含む）を受け入れ始めて、かれこれ15年以上になりますが、当初は中国人が中心でした。現在も受け入れ先の多くは水産会社ですが、特にここ数年、遠別ではホタテの稚貝養殖事業が盛況で、ますます町内だけで人手を賄えない状況が続き、人材を確保するためには、どうしても外国人技能実習生に頼らざるを得ません。実習生が中国人からベトナム人へシフトしていったのは5、6年前からのことで、彼らの気質といえますか性格が、勤勉、生真面目、向学心旺盛、器用で、なおかつ親日家が多いと聞いていたからです。

ちなみに1年もの（よく味噌汁に入っているサイズ）の遠別のホタテ稚貝は、その後オホーツク海の漁組さんへ出荷し、各地の海で蒔し育てられます。半成貝と呼ばれる2年貝の近隣アジアへの輸出も好評で、水産業でいうと、それ以外にもミズダコ（煮ダコの加工量は全道トップクラス）や秋鮭、ヒラメなども名高く、恵まれた資源と良港を守りながらこの規模の生産をキープするためには、外国人技能実習生抜きでは難しいのです。

